

第18回共に働くまちを拓くべんきょう会 生活支援センターから考える就労支援

4月25日(木)6時半～ 越谷市中央市民会館5F

このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働きかたや暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。一回、一回、レポーターをお願いし、それを口火としておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は埼玉葛北障害者生活支援センターのコーディネーター・菊地さんのお話をうかがいます。

越谷市でもこの秋から(福)つぐみ共生会が委託を受け生活支援センターのが発足します。生活支援と就労支援が現場ではどうかみあっているのか、またずれているのか、お聞きします。



写真は以前「つどい」でお話しいただいた長岡さん。同じ埼玉葛北でも長岡さんは主に知的を、菊地さんは身体を担当している。

会費・200円

**主催・障害者の職場参加を
考える会 048-733-2743**

話し手・菊地 久雄さん
(埼玉葛北障害者生活支援センターコーディネーター)

生活支援センターから考える就労支援

話し手・菊地 久雄さん

(埼葛北障害者生活支援センターコーディネーター)

「措置から契約へ」という流れの中で生活支援センターは市役所と並ぶ地域の相談・援助窓口としてあらためて注目されている。しかしセンターとバックアップ施設だけでトータルな地域生活の支援ができるはずもない。ともすれば障害者は福祉の対象としか考えてこなかった地域、自治体のあらゆる分野とりわけ地域の学校や職場、街づくりといった基本分野の中にさまざまな障害者を受け入れる試みが問われている。越谷市の事業もその一つだ。こうした過渡期にある地域の中で、生活支援センターではどんな悩みを抱え、どんな道を切り開こうとしているのだろうか。



3月25日～29日に「かがし座」で開催された「職場参加展」会場で行われた茶話会のようす。右手前の藤原さんは越谷市役所で実習し緊張感がよかったと語り、左億の里見さんは新座市就労支援センターの後押しで老人ホームでの実習からパート採用の話が決まるかもしれないと顔を輝かしていた。

第18回共に働くまちを拓くベンきょう会

4月25日(木) 6時半～ 越谷市中央市民会館5階

資料代・200円 障害者の職場参加を考える会 048-733-2743